

Q 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をたずることができます。

表紙は語る

見てのとおりこれは夏休み恒例のラジオ体操の様様。朝6時30分、ラジオの掛け声と共に一斉に始まる。
場所は若郷地区の元小学校の校庭。東側に真近に新島山が聳え、そのおかげで未だ涼しく体を動かすには丁度いい。
若潮会（子供たちの課外活動の団体）が主催し、

子供たちに混って地域の大人たちも三々五々散集。この日の参加者はおよそ30名。この後、帰宅して朝食となる。
さて、子供たちの今日の予定は？夏休みの宿題？それもいいが、やはり伸び伸びハツラツと体を動かしたいもの。われは海の子。夏は海が一番。くれぐれも事故のないよう、また熱中症にはご用心。

山本均 議員



の対策と成果、村の現状把握と対応を伺う。

答

即戦力となる介護職員が4名ほど不足している。特に夜勤のできる職員が足りない。このような事情から事業縮小を余儀なくされている。

特養ホームの運営はどうなっているのか？

問

ホームの現状に利用者者の家族から憤懣が満ちているという。これまでのホーム

村は常にホームの現状把握には互いに連絡を取り合い、情報共有に努めている。



住民公聴会の開催は？

問 今年度の住民公聴会の予定はどのようになってるか、日時、テーマ等明らかにしていただきたい。

答 今年度は要望の実施年度とし、住民公聴会は予定していない。各団体との意見交換等は担当課が随時実施しているので、必要が生じたならば私がそこへ伺う。

また今年度は自治会で村への住民要望を取りまとめると聞いているので、その機会を利用してもらおうか、村長室まで遠慮なく来てもらえれば、と思う。

この夏はどんな観光対策があるのか？

問 村長はこの夏の観光に各種団体

どんな働きかけをしたか？村は観光にどんな態勢で臨み、盛り立ていくのか？

答 来島者が減少した一因にホスピタリ

ティの欠如がある。おもてなしの心で接し、お客様を大切にすることで、徐々に来島者を増やす着実な歩みが必要ではないか。



先月、両観光協会、商工会、漁協、農協、水産加工組合と第1回産業振興会議を開催した。夏の観光という限定ではなく、アイデアを出しあい団結して産業界全体の向上を目指した事業ができれば、と思っている。

村の総合戦略等策定の進捗状況は？

問 この策定のための委員会のタイムスケジュールはどうなっているのか？

答 現在、人口ビジョンおよび総合戦略の策定に向け、起草案の作成をしている。これを基にコンサルタントに業務委託をし、具体的施策の検討を重ね策定に努める。

委員会は全体で6回程度、本部委員会（村

長、管理職等で構成）は4回程度、合同委員会も必要に応じて開催する。12月までに原稿ベースで完成し、2月末までに印刷製本が完成する想定でいる。

前田 卓秀 議員



空き家バンクについて

問 3月定例会で、空き家バンクの登録推進に、広報にいじまでの紹介や固定資産税の請求書送付時にお知らせを同封している



この回答を得たが、その後、増えたのか？

答 今年から新島村出身者でつくる新島郷友会を通じ、PRチラシを配布した。

周知するのに時間がかかっている、継続的に住民や島外在住者の理解を根気よく求めていく。

今夏の集客対策について

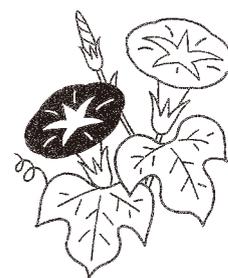
問 年々減少している観光客に対して、どのような対策をたっているのか？

答 特にシーズンだけに絞り込まず、今、来ていただいているお客様を大切に、同時に、今ある資源の再発掘、新たな観光コンテンツの開発を連携していき、年間を通じて集客できるように努める。

問 宿泊施設の減少にどのような取り組みでゆくののか？

答 27年度は、商工会の新規創業者支援を補助し、共に事業に取り組み、成果を検証し、来年度以降もさらに内容を工夫したい。それと同時進行で、空き店舗や空き住居の

調査、最終的にはリノベーションも視野に入れて取り組んでいく。



木村 諭史 議員



新島村の長期的な人材の育成・確保・活用の姿勢について

問 担い手候補である在校生のアンケート結果をどうとらえているのか？

答 島に戻りたい積極的な理由として「生まれ育った場所だから」「家族が居るから」という、いわば普遍的な意識がある。

一方で「働くところが少ない」「遊ぶところがない」「結婚が難しい」とあるが、これらの問題を解決していければ島の未来が期待できる。

村は平成24年度から公共雇用の希望リストをとりまとめている。今後、雇用状況等の情報をえておくことは必要である。

障害児者就労支援に関する総合的展望と人材活用・連携の現状について

問 障害児者の就労支援対策の総合的な



視点と、その際、関係者の関与を公共私の各段階でどう引き出すか、教示願いたい。

答 平成22年度からさわやか健康センターに就労支援コーナーに就労支援センターを配置し、就労面と生活面の支援を一体的に提供している。

在学の児童、生徒には最終的に自主的な社会参加を主目的に教育が行なわれ、担任教諭を通じて本人・保護者の意向にそった支援をする。島内での就労希望には民生課と連絡、協議し、卒業後スムーズに就労できるようにしたい。

お ぶ せ ま ち
長野県・小布施町まちづくり視察

議員 木 村 諭 史

議員視察の前半の目玉として、長野県でもっとも人口の少ない町である小布施町(人口11,231人、7/1現在)を訪問した。小布施町は特産の栗と葛飾北斎が滞在したことで知られ、近年は良質のワイン、なによりも住民・行政ともに主体的に関わった町並み修景が有名であり、日帰り観光が多いものの、観光客が年々増加している(平成20年で76.5万人と推測)。

住民が個人住宅の面積を減らし、たとえコスト高を招いても、自主的に町並みに調和するたたずまいにしたり、個人の財産である土地を融通・交換しあって、美しい町並み・散策路を



整備してきた歴史がある。また町並み修景にあたっては、湯布院などの視察などを行い、綿密に計画がたてられてきた。

小布施全体で感じるのは、人材教育と活用の意識の高さである。町長室の隣には地域活動・研究をともにする大学研究室に解放され、町長室に至る通路には大学研究室がまとめ上げた小布施の修景の歴史が一望できるようになっている。町役場の隣には

『交流と想像を楽しむ文化の拠点』と銘打たれた『まちとしょテラソ』という図書館がある。たとえば5月のイベントでは『お父さんによる読み聞かせ会』『おはなし会』、絵本から発展したハーブ講座などがあつた。



また、リクルート等の民間企業との人材交流もさかんで、小布施に日本全国から先駆者を集め、若者100人と語り合う『小布施若者会議』が数百万円単位の予算を拠出して実施された。

このような多様な住民の出番・居場所づくりと内外を含めた交流・一環する人材教育と人材活用の姿勢があつてこそ、小布施の修景事業が成立しているといえる。表面上の成功事例の模倣で



はなく、きちんとその土壌を変えていくことができるかどうか、学びの多い視察であつた。